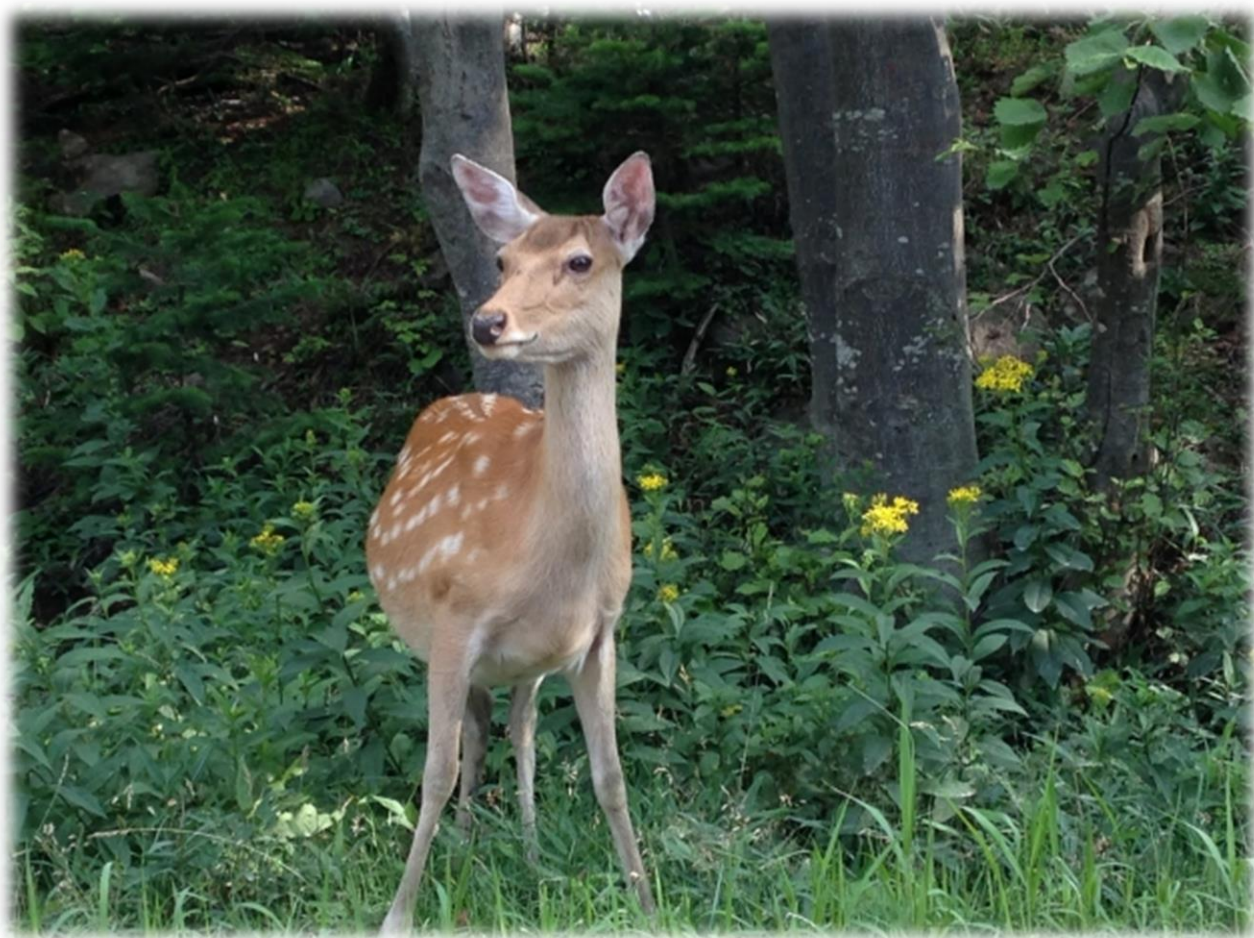


令和6年度版 ニホンジカ 被害対策マニュアル



狩猟普及委員会



①ニホンジカの生態について

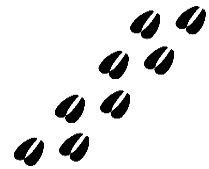
- 草食性です。新芽や柔らかい葉、稲、大豆、トウモロコシ、ほうれん草、食べる物が少ない冬の季節は樹皮なども食べてしまいます。
- 一夫多妻制（ハーレム）の群れで行動しますが、ニホンザルのようにナワバリをつくる習性はありません。食べ物を探し求め、自由に移動する動物のため、被害地域がどんどん拡大していきます。またメスの近くには高い確率でオスがいる為、繁殖力は高い野生動物です。
- 妊娠したメスジカは、5月～7月に子どもを基本1頭出産します。生まれたメスの子ジカは、2年程で出産が可能な成獣に成長します。
- 暗所での視力に優れており、暗い中でも対象物をはっきりと見ることができます。



ニホンジカのフン

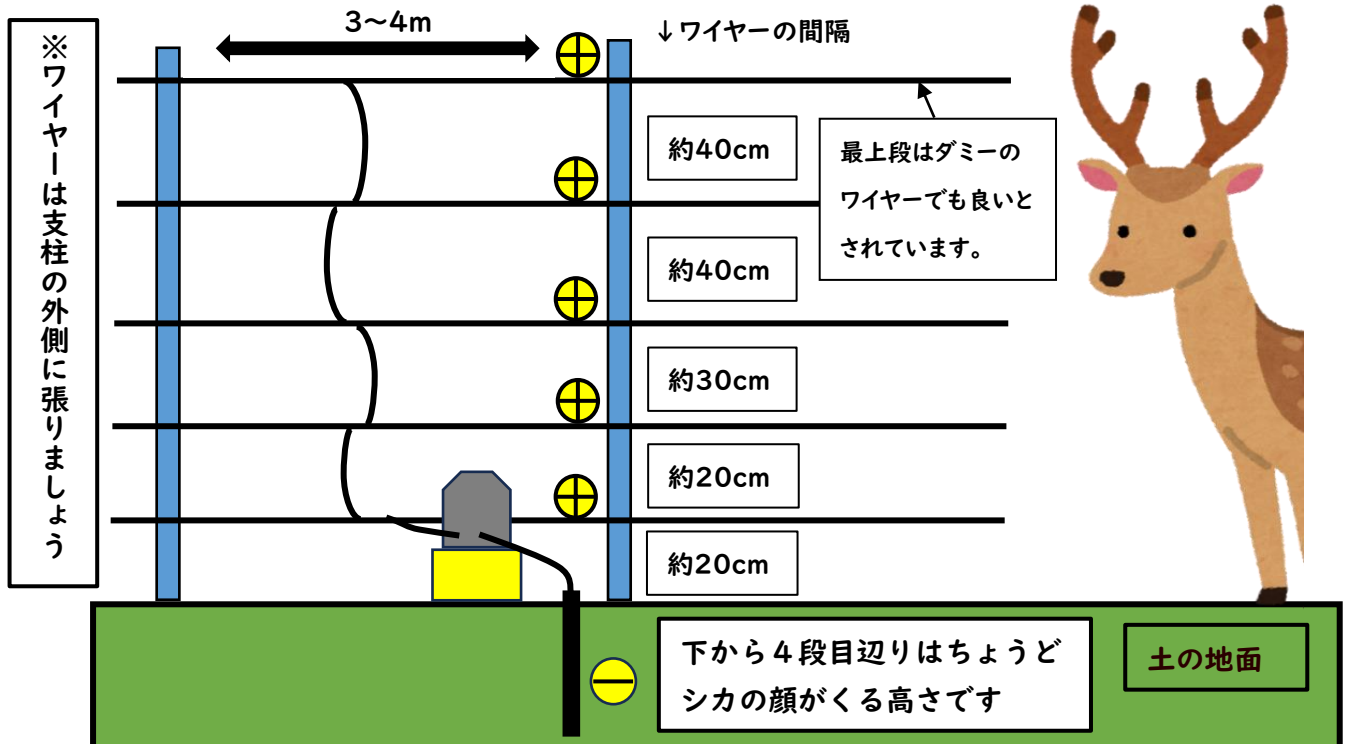


ニホンジカの足の裏



ニホンジカの足跡

②ニホンジカを想定した電気柵の張り方のポイント（例）



※電気ワイヤーを5段も張ることが困難な方は、高さ60cm程のワイヤーメッシュの柵の上に電気ワイヤーを3段ほど張った柵（こちらも全体の高さは150cmほど）も効果的です。ニホンジカは柵を乗り越えて侵入する傾向があるため、シカが柵に寄りかかった時に体重で倒れてしまわないような柵を設営するのもポイントです。

③ニホンジカ用の電気柵の注意点



- a
- 農地区画の角は若干太目のしっかりした支柱（FRP 素材など）、中間の支柱は体重がかかったとしても簡単に倒れない弾力性のある支柱（グラスファイバー素材など）がおすすめです。
 - ニホンジカ用の電気柵の高さは、約150cm以上の高さがあるものが好ましいと言われています。
 - ニホンジカは学習する動物です。通電していない電気柵は「電気柵を恐らない個体」を作り出す可能性があります。電気柵本体の電源スイッチは、24時間365日つけっぱなしが基本です。長い期間本体の電源スイッチを切る場合は、電気柵（もしくはワイヤーだけでも）を撤去しましょう。
 - 伸びた雑草などによる電気柵の漏電対策として、柵下に除草シートを敷く、除草剤を撒く、定期的に雑草の刈り払いを行うなどの方法があります。
 - 柵の設置後の電圧は4000V～6000V（可能であれば5000V以上）を維持しましょう。また定期的には必ず専用の電圧計測器で確認しましょう。
 - 電気柵のワイヤーの垂れ下がり、伸びた雑草等による漏電、地面から1段目のワイヤーの間隔にご注意ください。また電圧が落ちていないか定期的に全ての段のワイヤーの電圧を確認しましょう。

④餌場、隠れ場を無くす



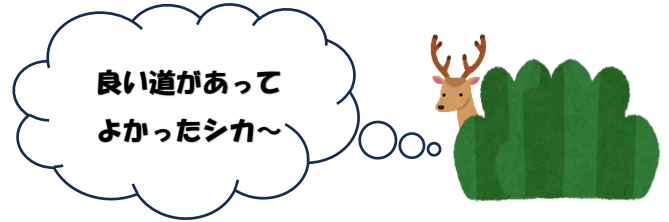
ニホンジカによる樹皮の食害対策として、樹皮を守るためにスズランテープを樹に幹に巻き付けるという対策があります。

食害だけでなく、秋～春のオスジカは、樹木に角をこすりつける習性があります。このスズランテープ巻きはそうした「角コスリ」を防ぐ役割も担っています。ニホンジカは角を樹にこすりつける際にスズランテープが引っ掛かるのが苦手なようです。被害の出る樹の根本～140cm程の高さまでスズランテープをグルグルと巻き付けましょう。※テープ幅は細めの物よりも太めの物ほうが効果的です。



ニホンジカをはじめ野生動物にとって、集落の山際や川際の茂みは人に見つからずに人里の農地まで安心して移動できる道となります。

茂みの中=安全な通り道です



ニホンジカの間から見たら

「安全な通り道」ですが…



茂みをキレイに整備して、見通しを良くすれば…

※注意事項※

ニホンジカは草原のような場所で新芽を食べて過ごすこともあり、草刈りを行った場合、ニホンジカを寄せ付けてしまう可能性があります。そのため農地などの守るべき場所は、必ず適切な防獣柵で囲うようにしましょう。

⑤ニホンジカの餌場、通り道を無くす重要なポイント

- 防獣柵の無い農地、農作物などの廃棄、落ちた果樹の実などは、ニホンジカをはじめとする野生動物を寄せつける原因となります。防獣柵で囲う、誘因物は屋外に放置しないなどの対策が必要です。
- 集落の山際や川際の茂みの中は、ニホンジカをはじめ様々な野生動物の移動通路です。定期的な下草、低木の刈り払いを行い、見通しの良い環境を作り、ニホンジカが居づらい環境を整えましょう。
- ニホンジカは食料が少なくなる冬の時期は、樹皮も食べるようになります。林業を営む方にとって、ニホンジカによる食害は悩みの種かと思われます。
| 本ずつ巻くため手間はかかりますが、スズランテープ巻きは食害・角コスリ被害対策としてかなり有効な対策です。樹の根本から140cm程まで巻きましょう。

※樹に巻き付けるスズランテープの幅は、太めのほうが効果的です。



⑥山林内で下記のようなプレートを見かけた場合

許可証 番号		許可の 有効 期間		年	
氏名			月	日	から
住所				年	
			月	日	まで
●					●
電話 番号					
許可 者					

山林内で「くくり罠」（金属製のワイヤーで片足を拘束するような罠）で捕獲されているニホンジカやイノシシなどの野生動物見かけた場合、決して近づかないようお願い致します。

国内において、狩猟者や有害鳥獣捕獲等従事者が「くくり罠」で片足を拘束されたニホンジカやイノシシに体当たりされ、大ケガを負うような事故が毎年起きています。

野生動物は通常であれば警戒心が強く、よほどのことが無い限り、動物の方から人間に近づくようなことはありませんが、自らの命の危険を感じた場合は近づくものに対して威嚇行動をとってきます。

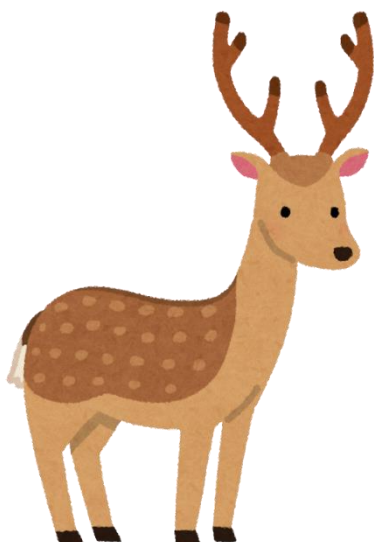
上のような白いネームプレート（有害鳥獣捕獲期・狩猟期）がある付近には、狩猟者や従事者が仕掛けた罠があり、片足をワイヤーで拘束されたニホンジカやイノシシ、場合によってはツキノワグマなどの大型野生動物が付近の茂みの中に潜んでいる可能性があります。

山林内で上記のネームプレートを見かけた際は、十分にご注意いただくようお願い致します。



ニホンジカ対策チェックシート

- ニホンジカにあった高さ・ワイヤーの間隔等を考慮し、柵を設営しているか？
- 電気柵の電圧は適正な値になっているか？また定期的に確認しているか？
- 電気柵の本体の電源を切った状態で電気柵を長期間放置していないか？
- ワイヤーマッシュ柵等の物理柵を使用する場合、メッシュの下部や繋ぎ目からの侵入を防ぐ処理を行っているか？
- 無意識の餌付け（不適切な場所への作物廃棄、放任果樹など）を行っていないか？
- 集落がニホンジカにとって過ごしやすい環境になっていないか？



**全てにチェックマークがついていれば、
安心して農作物を作れる環境と言っても
過言ではありません。**